

早稲田大学 政治学研究科

# 科学技術ジャーナリスト養成プログラム ( MAJESTy )

**M**aster of **A**rts Program for **J**ournalism **E**ducation  
in **S**cience and **T**echnology

科学技術振興調整費 新興分野人材養成

谷川建司  
Takeshi Tanikawa

**若年層の理科離れ  
国民の科学技術に対する理解・情報不足**



**科学技術ジャーナリストへの期待**



## **科学技術ジャーナリスト養成プログラム**

2006年度から学生受入

正規の修士課程（政治学研究科）

養成目標： 3年で10名、5年で30名

系統的なカリキュラムの確立

5年後の継続体制の整備



# 1. 養成する人材

科学技術コミュニケーター

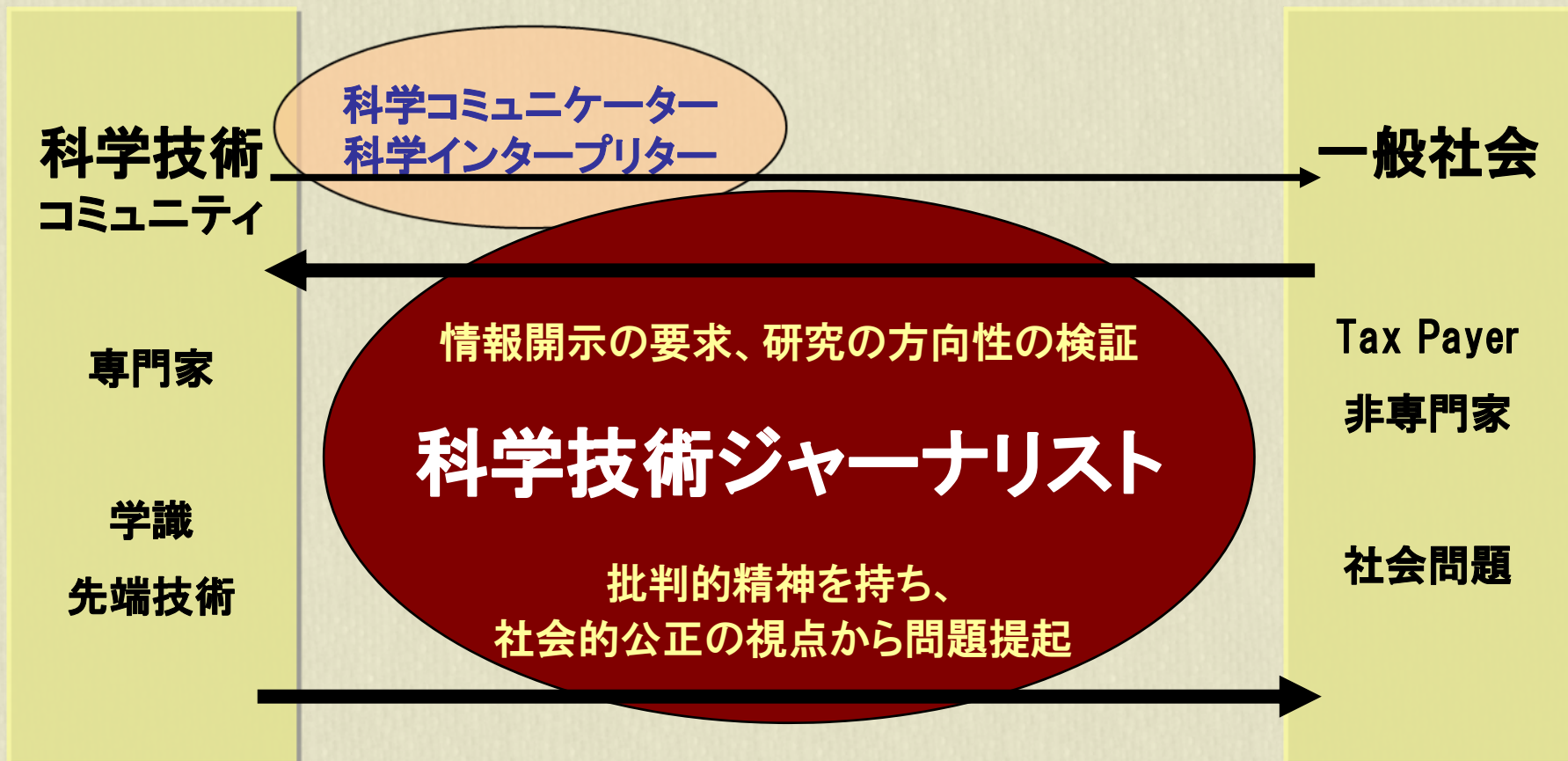
職種の広がり・可能性:

- 教員
- 研究者
- 研究機関広報
- 科学館・博物館員
- 行政官
- ジャーナリスト
- ライター
- 技術者
- 企業広報
- ファシリテーター
- コミュニケーター
- ：



当プログラムの焦点

# 1. 養成する人材



科学技術コミュニティと一般社会の境界に位置する  
「科学技術ジャーナリスト」

### 人材を実現する5要素を設定

科学技術の理解

実践的スキル

ジャーナリズムと  
メディアの理解

現場主義

建設的批判精神





## 5要素を育むカリキュラムを構築

### 5つの要素

科学技術の理解

ジャーナリズムと  
メディアの理解

建設的批判精神

現場主義

実践的スキル

### 科目領域

自然科学基礎知識、  
基礎部門

イシュー領域

実践部門

ジャーナリズム領域

方法論、  
知識情報リテラシー科目



## 5要素を育むカリキュラムを構築

<b>科学技術ジャーナリスト養成科目群</b>	<b>自然科学基礎知識</b>	<b>政治学研究科 共通科目</b>	<b>ジャーナリズム領域</b>
	<b>基礎部門</b> 科学技術政策、科学方法論 医療と社会 など		マス・コミュニケーション理論 マスコミ産業論 ジャーナリズム論 など
	<b>イシュー領域</b> 生命倫理、リスク管理 情報技術と情報産業 エネルギーと環境 など		<b>方法論</b> 政治学研究方法 など (経験・規範理論・数理分析)
<b>実践部門</b> 科学コミュニケーション実習 メディア制作実習 インターンシップ など	<b>知識情報・リテラシー科目</b> 英語ライティング入門・演習 情報発信演習 など		
<b>修士論文指導</b>		科学技術論演習、ジャーナリズム論演習	



## 実践科目の強化

### 例1:

	初年度	現在
科学コミュニケーション実習	1, 2, 3	1A, 1B, 2, 3, 4
メディア制作実習	1, 2	1A, 1B, 2, 3A, 3B

### 例2: インターンシップ

必修。  
被養成者の想定進路に派遣。  
各機関との関係を蓄積。

これまでの派遣先:

毎日新聞(科学環境部)、読売新聞(科学部)、朝日新聞(科学グループ)、NHK、TBS、国土交通省、JAXA(広報室)、産総研(広報室)、高エネ研、国立天文台(広報)、科学技術館など



### カリキュラムの確立へ向けて

- 海外の養成事例調査 (2006年度)

アメリカ、イギリス、オーストラリアの大学・組織などを対象。  
最初のデザインに反映。

- 学生の意見を聞く会 (2006年6月)

- 授業評価アンケート (2007年4月)

年間取得単位数上限の緩和  
学生ニーズに対応した科目の新設、 など。

- 外部評価 (2007年11月)

ウィル・リフキン教授 (ニューサウスウェールズ大、オーストラリア)  
牧野賢治教授 (東京理大・日本科学技術ジャーナリスト会議前代表)

## (1) 被養成者の概要

### 第一期生 (2006年度入学): 17名

既卒者12名 (出身: シンクタンク、建築ジャーナリスト、理科教員 など)

新卒者 5名 (3名が新聞社に就職)

理系 : 文系 = 1 : 2

2007年度末 修士号授与 11名

### 第二期生 (2007年度入学): 19名

既卒者 6名 (出身: 民放TV局報道部長、プロカメラマン、製薬会社 など)

新卒者13名 (2名が新聞社に内定、ほか出版社1名、番組制作会社1名)

理系 : 文系 = 3 : 1

### 第三期生 (2008年度入学): 19名

既卒者 7名 (出身: 医師、理研、フリーディレクター、コピーライター など)

新卒者12名

理系 : 文系 = 1 : 1

既存の人材の再教育 + 新たな人材の創出



## (2) 被養成者の質

### 個別面接による到達度評価（入学1年後）

各科目の成績  
5つの要素ごとの自己評価  
残る期間でどの部分を強化すべきか助言

### 恒常的な到達度評価

合同研究指導会  
コースワークと修士論文

### 修了後の活動の追跡調査

被養成者本人とその上司に  
ヒアリングを実施（2008年度より）

MAJESTy 第一期生 到達度評価

2007年10月 日  
学籍番号 \*\*\*\*  
学生氏名 \*\*\*\*

評価

1. 履修状況

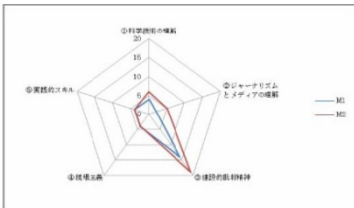


図1 M1からM2までの履修状況比較 ※M2はこれまでの履修の合計 合計 26/32単位

2. 成績評価

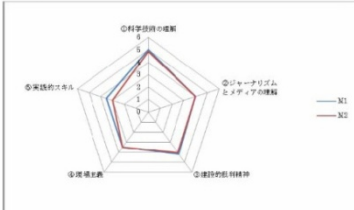


図2 M1からM2までの成績比較 ※成績表記(A++-Hまでの7項目)を数値化(A+=6, A=5, B=4, C=3, F=2, G=1, H=0) 例外: 別紙1参照 (P=1, Q=0: 通常科目と異なり成果をもって評価を与える科目)

	① 科学技術の理解	② ジャーナリズムとメディアの理解	③ 建設的批判精神	④ 現場主義	⑤ 実践的スキル
M1	4.5 (5科目中)	5 (2科目中)	4.9 (16科目中)	5.5 (4科目中)	4.7 (5科目中)
M2	4.75 (4科目中)	5 (2科目中)	4.6 (1科目中)	4.5 (5科目中)	4.6 (6科目中)

表1 成績平均値

## (3) 新たな科学技術ジャーナリスト教育の創生

実践的な訓練を組み込んだ大学院教育

従来：メディア企業でのOn-The-Job Training



ジャーナリスト教育の構造変化。

専門知と体系性を重視するジャーナリスト養成へ。

大学の積極的な関与。

- ・ 大学院教育における新しいキャリアパス形成
- ・ メディア企業における新たな人材への需要の喚起



新しい科学技術ジャーナリズムの樹立



### (4) 新たな科学技術ジャーナリズムの普及に向けて

#### 公開集中講座「MAJESTy's Boot Camp」

2007度より夏と春に実施。

目的1: 社会人の再教育への需要を喚起する。(→応募多数)

目的2: 地方のニーズに応える。(2007年3月九州開催)

#### 公開セミナー「MAJESTyセミナー」

毎年～5回程度の実施。

ホットな話題をジャーナリズムの視点で考察。

#### 日本科学技術ジャーナリスト会議との連携

賛助会員として活動。

## ● ジャーナリズム・コースへの発展

→ 2008年度より  
同じ政治学研究科内に  
「ジャーナリズム・コース」を新設



→ 日本初の  
“ジャーナリズムを専門とする大学院”

MAJESTyの蓄積をもとにコースをデザイン。  
科学技術以外に分野を拡張。  
大学院ジャーナリズム教育を確立。

## ● 科学技術ジャーナリスト養成の継続

→ 「ジャーナリズム・コース」の最重要な領域のひとつとして、  
MAJESTyの発展的継続